

(3) 北海道上富良野高校の資料

- 上 1 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（1年次）《第1次》
- 上 2 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（1年次）《第2次》
- 上 3 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施報告書（1年次）
- 上 4 令和4年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（2年次）
- 上 5 令和4年度 北海道 CLASS プロジェクト実施成果報告書（2年次）
- 上 6 令和5年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（3年次）
- 上 7 全道地学協働活動研究大会発表資料
- 上 8 令和5年度 北海道 CLASS プロジェクト実施成果報告書（3年次）

令和3年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（1年次）《第1次》

学校名	北海道上富良野高等学校
作成日	令和3年6月22日

1 課題把握

(1) これまでの学校と地域の関係・取組

- ・総合的な探究の時間における大雪青少年交流の家のプログラムを活用した地域探究活動の実施
- ・理科、地歴、総合的な探究の時間における十勝岳ジオパーク推進協議会と連携したフィールドワークや地域の方による講演の実施
- ・地域住民会の主催による探究活動の成果報告会と町民と語る会の実施
- ・コミュニティ・スクールの機能を生かし、上富良野町教育振興会、町内小中学校とともに、生徒に育成を目指す資質・能力の共有
- ・上富良野高校サポーターズクラブによるラベンダー定植等の生徒の活動支援
- ・野球部を応援する会による公式野球部の環境整備等の支援

(2) 現状における課題

- ・社会教育施設と協働し、目指す資質・能力を確実に育成する探究活動の充実
- ・探究活動を通じて育成を目指す資質・能力の評価方法の充実
- ・学び、成長する場としての探究活動の指導体制、地域との連携の充実
- ・地域課題と探究活動が有機的に結びつく探究プログラムの確立

2 仮説検討・テーマ設定・目標設定

(1) 研究仮説

- 《仮説1》学校設定教科「地域探究」を設定し、生徒の主体的・対話的・深い学びの実現に向けた課題解決型学習プログラムを主軸に教科横断的に実施することで、生徒の「行動する力」「考える力」「表現する力」を育成することができる。
- 《仮説2》地域と連携して活動することで、生徒と地域がお互いに学びあい、生徒の「自律する力」「つながる力」「挑戦する力」を育成することができる。
- 《仮説3》地域の課題解決に向けた探究活動を行い、その成果を地域と共有することで「自立する力」「つながる力」「表現する力」「挑戦する力」を育成することができる。さらに、グローバルな視点をもってコミュニティを支える地域のリーダーを育成することができる。
- 《仮説4》地域コーディネーターと中心とした地域連携コンソーシアムを構築し、事業を分担して実施することで本校職員の業務の負担を軽減するとともに、地学協働の中心となる学校としての位置づけを定着させることができる。

(2) 研究テーマ

地域と協働した地域課題探究型学習プログラムを開発し、生徒と地域が共に学ぶことで本校が目指す資質・能力を備えた生徒の育成を図る。また、連携・協働プログラムを通じて地域に根差した高校づくりと地域に貢献する人材の育成を図る。

資料 上 1

(3) 今年度の目標

3 研究の具体

(1) 研究内容（選択する項目を■にしてください）

- 「Collaboration」 【地域・産業界等との連携・推進】
 - 地域課題を題材とした探究活動の実施
 - 他校との成果の交流（合同発表会等）
- 「Literacy」 【学んだことを将来に生かす能力】
 - 探究型学習プログラムの開発
 - 地域素材を生かした教科横断型プログラムの開発
 - 普通授業への還元（主体的・対話的・深い学びの実践）
- 「Adult」 【多くの大人が子どもと一緒にあった取組の推進】
 - 地域で活躍できるリーダーの育成
- 「Student」 【生徒理解に基づく指導の充実】
 - 育成する生徒像にむけた具体的な事業計画と授業改善
（自律的に活動する生徒の育成）→アクティブラーニング型授業の実践
 - 評価方法の開発
- 「System」 【学校と地域の連携・協働の仕組みづくり】
 - 地域コーディネーターとの連携と役割分担
 - 学校地域連携コンソーシアムの構築

(2) 研究成果の普及方法

本プロジェクトの取り組みとその成果を随時 HP で公開する。また、年に 1 回地域フォーラムを開催し、地域の方にその成果を普及する。また、コンソーシアム内で 1 年間の活動について研究協議を行い、その成果と課題を共有する。

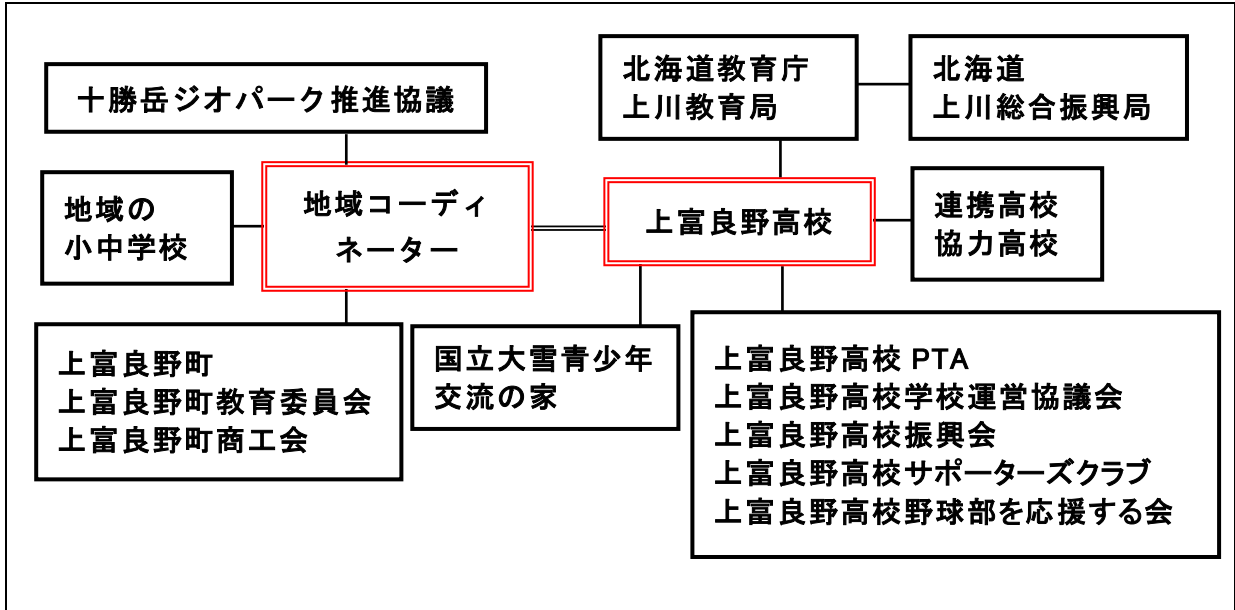
(3) 研究のイメージ（概要等）

別添概要図のとおり

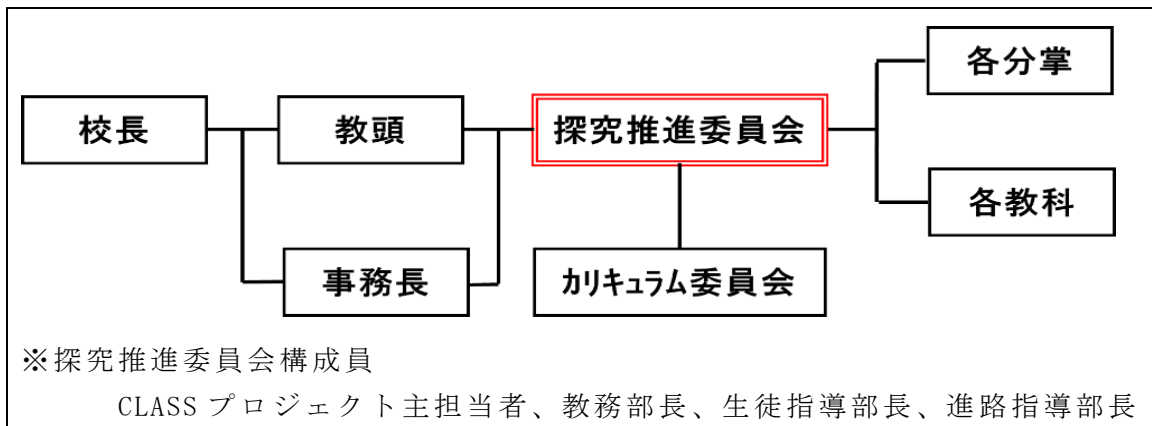
資料 上 1

(4) 研究組織

① コンソーシアム構成図



② 校内体制



4 その他特記すべき事項

資料 上 2

令和 3 年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（1 年次） 《第 2 次》

学校名	北海道上富良野高等学校
作成日	令和 3 年 9 月 2 4 日

1 3 年間の目標

開発した地域課題探究型学習プログラムを基礎としたカリキュラムを通じて、本校が目指す 6 つの力を持った生徒の育成を図る。また、連携・協働プログラムを通じて、地域に根差した高校づくりと地域に貢献する人材の育成を図る。

2 年次ごとの目標と取組計画

月	取 組
1 年次 (R3)	(目標) ・ 地域課題の解決に向けた、探究型学習プログラムの開発 ・ 地域コーディネーターを核としたコンソーシアムの構築 (主な取組) ・ 学校設定科目「地域探究Ⅰ」「地域探究Ⅱ」の設定に向けた計画の立案 ・ ルーブリックを用いた評価方法の設定及びポートフォリオの作成に向けた研修 ・ コンソーシアムの構築と地域連携の強化による教育活動の充実 ・ 地域連携協働活動及び探究活動先進校の視察研修 (検証の項目) ※定量及び定性 ・ 現在実施している地域探究学習活動の効果の検証 ・ 生徒および教員、外部による 6 つの力の育成に対する評価
2 年次 (R4) 【予定】	(目標) ・ 開発したカリキュラムの実践と効果の検証及び改善 ・ 地域協働学習プログラムの実施 (主な取組) ・ 地域課題の解決に向けた、探究型学習プログラムの実施 ・ コンソーシアムを軸とした、地域と連携した授業及び事業の実践 (検証の項目) ※定量及び定性 ・ 設定したルーブリックによる各事業の評価（生徒・外部） ・ 生徒及び教員、外部による 6 つの力の育成に対する評価
3 年次 (R5) 【予定】	(目標) ・ 開発・改善を行ったカリキュラムの実践及び効果の検証 ・ 地域協働活動事業の実施及び効果の検証 (主な取組) ・ 地域課題の解決に向けた、探究型学習プログラムの実施 ・ コンソーシアムを軸とした、地域と連携した授業及び事業の実践 (検証の項目) ※定量及び定性 ・ 設定したルーブリックによる各事業の評価（生徒・外部） ・ 生徒及び教員、外部による 6 つの力の育成に対する評価 ・ 実施 3 年間の成果の検証及び評価による事業の効果分析

資料 上 2

3 今年度の検証の項目と方法

検証の項目	検証の方法
現在実施している地域探究学習の効果の検証	ルーブリック評価、パフォーマンス評価、アンケート
生徒および教員、外部による6つの力の育成に対する評価	ルーブリック評価

4 今年度（令和3年度）の計画

月	取組
6	第1次計画の立案
8	コンソーシアムの構築、今年度の事業計画の見直し
9	第2次計画の立案、地域探究中間報告会の実施（2学年） 探究活動にむけたフィールドワークの実施（1学年）
10	第1回コンソーシアム会議の実施、
12	地域探究発表会の実施（旧計画）と評価
3	第2回コンソーシアム会議の実施 学校設定教科「地域探究」に向けた事業計画の立案
随時	先進校視察研修 ルーブリック評価の設定および研修 ポートフォリオの開発および研修 地域探究に関わる事業の実践と評価・見直し

5 その他特記すべき事項

--

資料 上 3

令和 3 年度 北海道CLASSプロジェクト実施報告書（1 年次）

学校名	北海道上富良野高等学校
作成日	令和 4 年 3 月 1 8 日

1 今年度の検証について

①	検証の項目	地域課題をもとにした探究型学習プログラムの開発。
	検証の方法	既存の計画をコーディネーターと打ち合わせながら改善を図り実施して、ポートフォリオからその成果を分析する。
	検証結果	<p>1 学年における地域探究は、国立大雪青少年交流の家のプログラムに則って実施する予定であったが、本校の生徒の実態や、2 年次に向けた活動の基礎を身につけさせるためのプログラムに改善するため、コーディネーターを含めて協議し、プログラムを変更し、ポートフォリオを作成することでその成果を分析した。</p> <p>9 月に実施した「仮説・検証」プログラムについては、ジオパークの活動についてグループで仮説を考え、調査を行って、発表をした。この活動によって、探究活動の基礎である「探究の流れ」「課題設定」「情報収集」「仮説設定」「発表方法」に関わる力が身についたことが生徒のポートフォリオから判断できる。また、本校が育成を目指す 6 つの力についても効果があり、特に「自律して活動する力」についての効果が大きいことがうかがえる。</p> <p>3 月に実施した「地域課題発見プログラム」はコーディネーターの方も指導に加わり、生徒が個々の地域課題についてマインドマップを作成・共有し、これをもとにグループを作成した。さらに、その課題解決に向けた目的を定めて、発表しお互いに質疑応答をしながら外部の方の助言をいただいた。この活動のポートフォリオにおける自己評価と、担当教員の評価もほぼ一致しており、この 1 年間で活動した探究活動の基本的な事項の理解と力が身につけていることがわかる。</p> <p>一方で、2 学年における地域探究では、12 月の本発表前に 3 年生に向けてプレポスター発表を実施して、3 年生から質疑やアドバイスをもらい、本発表にむけた改善につなげることができた。生徒のポートフォリオからはある程度探究活動の基礎を踏まえて活動できたことがわかる。また、育成を目指す 6 つの力についてもある程度効果があつたことがわかる。しかし、担当教諭による評価と比較すると、一部の力に差が見られた。</p> <p>これらの結果を、改善を加えたプログラムを実施した次年度の 2 年生（現 1 年生）の結果と比較することで、プログラム改善の有効性が明らかになると考える。</p>

資料 上 3

②	検証の項目	地域コーディネーターと連携したコンソーシアムの構築
	検証の方法	コンソーシアム会議を実施する。
	検証結果	<p>9月に実施した第1回コンソーシアム会議では、CLASSプロジェクトの概要を理解していただくとともに、生徒が活動内容を発表し、その成果を確認していただいた。会議においては、生徒がより地域のことをしっかりと調べて、協働した活動にしていくために協力していただくことを確認できた。</p> <p>3月に実施した第2回コンソーシアム会議では、今年度実施した事業とその成果・課題について報告した。なかでも、「生徒評価・事業評価」「コーディネーターとの協力体制」「地域への発信」「地域との協働体制」についてご意見をいただいた。「評価」については「どのようにして行うのか」といった不安の声もあり、次年度に向けてその方法を具体的に説明する必要がある。また、まだまだ活動が地域に浸透しておらず、「地域への発信」に力を入れる必要があるとの意見もいただいた。次年度は町民に向けた発表会を実施する予定だが、そこで生徒と地域の住民が意見交流するような場を設けてはという意見もいただき、検討中である。</p>

2 今年度（令和3年度）の取組

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
4	上富良野町フィールドワーク【1学年】 地域探究の実践【4～11月】	・郷土資料館、砂防ダム、泥流跡地を巡る（4月 1年生） ・6グループに分かれてそれぞれの地域課題について探究活動を開始（4～11月 2年生）
5		
6	課題を見つける【1学年】	・望岳台でのフィールドワークで課題発見プログラムを実施（6月 1年生）
7	町長への提言発表会【3年生】	・3年生4グループが地域探究の成果を町長に発表し提言（7月 3年生）
8		
9	仮説をたてる【1学年】 地域探究校外活動【2学年】	・ジオパークの活動について仮説をたて、インタビューとフィールドワークによる調査活動を行い、発表する。（10月 1年生）
10	中間報告会【2年生】 第1回コンソーシアム会議	・地域探究の活動状況について発表し、外部から助言をもらう（10月 2年生）
11	地域探究ポスター作成【2学年】（11～12月）	・3年生に向けて地域探究活動のプレ発表を行い、質問や助言を得る（12月 2, 3年）
12	地域探究発表会【全校生徒】	・全体に向けて地域探究活動のポスター発表を1年生と保護者、外部関係者に対して行う。（12月 1, 2年生）
1		
2		
3	地域の課題を発見する（1学年） 第2回コンソーシアム会議	・個々が考えた地域課題をもとにグループを作って、2年生での活動に向けたテーマを設定し、発表して外部の方の助言を得る。（3月 1年生）

資料 上3

3 組織化に関する検証【推進校のみ】

(1) コーディネーター選出の方針【教育局記入】

以前から学校の教育活動においても連携を深めていた十勝岳ジオパーク推進協議会の専門員及びジオパークガイド。

(2) コーディネーター選出の方法【教育局記入】

学校、教育委員会、教育局でコーディネーター候補者の情報を共有し、学校及び教育委員会で調整、依頼した。

(3) コーディネーターとの連携

各事業における、事前事後の打ち合わせ（次年度に向けた改善点等）を実施。次年度については曜日を固定して生徒の指導にあたる。

(4) コンソーシアム設置に関わっての方針

これまで総合的な探究の時間に関わってくださった「ジオパーク推進協議会」および「国立大雪青少年交流の家」を主軸として、本校の教育活動にご協力いただいている学校運営協議会のメンバーを加えて構成した。

(5) コンソーシアム設置に関わっての方法

学校から設立の趣旨、役割を説明し、了承を得た。

(6) コンソーシアム会議における議題

- ・ CLASS プロジェクトの趣旨と本校の実施計画の説明（第1回）
- ・ 令和3年度活動報告および成果と課題に関する協議（第2回）

4 組織化以外の成果等

- ・ 2学年地域探究の1グループが全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」にエントリーし、地方ステージを経て全国大会に出場し銀賞を受賞した。
- ・ 地域連携や評価方法（ループリック）に関わる校内研修を実施して、教員全体の意識向上をはかることができた。

資料 上 4

令和 4 年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（2 年次）

学校名	北海道上富良野高等学校
作成日	令和 4 年 6 月 17 日

1 今年度の目標と取組計画

月	取 組
2 年次 (R4) 【予定】	(目標) ・開発したカリキュラムの実践と効果の検証および改善 ・地域と協働した学習プログラムの実施 (主な取組) ・地域課題をもとにした探究型学習プログラムの実施 ・コンソーシアムを軸として地域と連携した授業および事業の実践 (検証の項目) ※定量及び定性 ・開発したルーブリックによる各事業の評価 (生徒・外部) ・生徒および教員、外部による 6 つの力の育成に対する評価

2 今年度の検証の項目と方法

検証の項目	検証の方法
1 学年における学校設定科目「地域探究 I」の効果	生徒のポートフォリオ、指導者によるルーブリック評価
2 学年における地域探究プログラム改善の効果	昨年度の生徒アンケートとの比較、指導者によるルーブリック評価
3 学年における地域探究プログラムの効果	生徒によるアンケート、ポートフォリオの評価、指導者によるルーブリック評価
地域コーディネーターを中心とした地域連携コンソーシアムの運用	コンソーシアム会議における協議、各事業におけるアンケート

3 今年度（令和 4 年度）の取組

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
4	地域探究プログラム開始 コーディネーター打ち合わせ	【1 学年】 課題発見プログラム（4 月）
5		情報収集、インタビュー講座（5 月）
6	提言発表会、町民発表会 第 1 回コンソーシアム会議	仮説検証プログラム（9 月） 地域課題テーマ設定（2～3 月）
7		【2 学年】
8	コーディネーター打ち合わせ	地域探究活動（4～12 月）
9		テーマ発表会（6 月）
10	コーディネーター打ち合わせ	地域探究中間報告会（10 月）
11	コーディネーター打ち合わせ	生活体験顕彰制度応募（11 月）
12	地域探究ポスター発表会（12 月 16 日）	地域探究ポスター発表会（12 月）

資料 上 4

	第 2 回コンソーシアム会議	生活体験顕彰制度発表（1 月）
1	コーディネーター打ち合わせ	【3 学年】
2		地域探究活動プレゼン作成（4～6 月）
3	第 3 回コンソーシアム会議 コーディネーター打ち合わせ	町長への提言発表会（6 月） 地域探究町民発表会（6 月）

4 小・中学校との連携を強める取組

コンソーシアム会議における「地域探究Ⅰ」授業の見学
 地域探究ポスターの配布・掲示
 発表会における小中学校との交流方法の検討

5 その他特記すべき事項

特になし

資料 上5

令和4年度 北海道CLASSプロジェクト実施成果報告書（2年次）

学校名	北海道上富良野高等学校
作成日	令和5年3月20日

1 今年度の検証について

①	検証の項目	1学年における学校設定科目「地域探究Ⅰ」の効果
	検証の方法	生徒のポートフォリオ、指導者によるルーブリック評価
	検証結果	<p>昨年度の反省をもとにコーディネーターと検討を続けながら「探究活動の基礎」を身につける事業を実施した。それぞれのプログラムを経験することで、それぞれの基礎的な力を身につける上で効果があることがわかる。また、本校が目指すスクールポリシーについてもプログラムを重ねるごとに「非常についた」と答える生徒が増加している。しかし、「考える力」「挑戦する力」については減少している。これは、活動内容が複雑かつ難易度もあがった結果と考えられる。今年度は生徒自身の自己評価を元にした分析を行ったが、コンソーシアム会議においてこれらの自己評価に至る根拠を生徒自身が記述することで、その信憑性が高まるという助言をいただいたため、次年度においてリフレクションを改善していきたいと考えている。また、指導者（担当教諭・コーディネーター）によるルーブリック評価を今年度は実施できなかった。次年度はこれらの評価を各プログラムで実施し、総合的な事業評価に結びつけていきたい。</p>

②	検証の項目	2学年における地域探究プログラム改善の効果
	検証の方法	昨年度の生徒アンケートとの比較、指導者によるルーブリック評価
	検証結果	<p>2年生の地域探究の実践では、活動の節目であるポスター発表会が終了後の自己評価を昨年度の2年生と比較した。②「探究活動の流れを理解できたか」という自己評価では、昨年度よりも理解度があがっていることが分かる。これは、今年度の2年生が昨年度前倒しして実施した探究の基礎を学ぶプログラムの成果によるものと考えられる。この結果を裏付けるデータとして、④「今回の探究活動でどのようなことができるようになったか」という自己評価では、昨年度の2年生よりも「できる」「できない」の振れの幅が大きくなっている。これは、それぞれの活動の意味を理解し、そこに今回の自分の活動を照らし合わせて自己評価をした結果であると考えられる。スクールポリシーにおける自己評価についても「あまりつかなかった」と答えた生徒も一部いるが、「非常についた」と答えた生徒の割合が明らかに増加している。この結果から、昨年度の活動を改善した効果が現れていると考えられる。しかし、1学年と同様に</p>

資料 上5

	自己評価の信憑性を高めるためのリフレクションの改善や指導者による評価の実施が次年度の課題である。
--	--

③	検証の項目	3 学年における地域探究プログラムの効果
	検証の方法	生徒によるアンケート、ポートフォリオの評価、指導者によるルーブリック評価
	検証結果	<p>今年度の3年生の地域探究プログラムは、2年次に実施した地域探究活動の内容について6月中旬に町長に提言発表を行い、その成果をまとめて町民発表会で最終発表を行った。昨年度の3年生は町長への提言発表が活動のゴールであったが、その際の自己評価のデータがないため昨年度の3年生との比較はできない。そこで、2年生のポスター発表会が終わった段階の自己評価と、3年生の町民発表会が終わった段階のスクールポリシーに対する自己評価を比較した。このうち「行動する力」「考える力」「表現する力」「挑戦する力」で大幅な伸びが見られた。これは3学年における地域探究の目的が「成果の発信」であり、活動から提言を作成し、校内だけではなく校外に対して成果をプレゼンテーションする活動の効果であると考えられる。特に3年生はこれまでの地域探究の活動において、現1,2年生に比べて「発表する」という機会が少なかったため、これらの効果が大きく現れたのではないかと考えられる。このデータを次年度以降の結果と比較することで、1,2年に実施している探究プログラムの効果の検証や事業評価・改善につなげていきたい。また、1,2年生と同様に自己評価の信憑性を高めるためのリフレクションの改善や指導者による評価の実施も次年度の課題である。</p>

④	検証の項目	地域コーディネーターを中心とした地域連携コンソーシアムの運用
	検証の方法	コンソーシアム会議における協議、各事業におけるアンケート
	検証結果	<p>今年度はコンソーシアム会議を3回実施した。1回目は町民発表会後に実施し、生徒の発表する姿勢などで評価をいただいた。一方で、課題設定や分析・まとめについての改善点の指摘もあった。第2回コンソーシアム会議は1年生の発表会後に実施し、これまでの活動の中間報告をもとに助言をいただいた。第3回コンソーシアム会議は3月に実施し、1年間の活動について評価と連携校との情報交換を行った。コンソーシアム会議では事業に向けたご意見をいただく場面が多いが、次年度については事業に関する評価基準をもとにした外部評価を実施し、事業改善につなげていきたい。</p>

資料 上5

2 当事者の声について

生徒	
教諭	
地域の方	

3 今年度（令和4年度）の取組について

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
4	課題発見プログラム【1学年～6月】 地域探究計画の立案【2学年～5月】 コーディネーター・担当者打合せ	<ul style="list-style-type: none"> ・国立大雪青少年交流の家の「オリエンテーション合宿」の実施。（4月15日 1学年） ・郷土資料館、防災センターを見学して疑問をもとに課題を見いだす。（4月15日～16日 1学年）
5	地域探究の実践【2学年～11月】	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー講座の実施と、インタビューの実践（5月） ・地域探究活動の活動計画をたてて発表する。（5月 2年生）
6	町長への提言発表会【3学年】 地域探究町民発表会【全校生徒】 第1回コンソーシアム会議	<ul style="list-style-type: none"> ・地域探究活動の成果をもとに町長に提言する（6月15日 3年生） ・地域探究の活動成果を全校生徒・保護者・町民に向けて発表する（6月24日 全校生徒）
7		
8	コーディネーター・担当者打合せ 仮説検証プログラム【1学年～9月】	
9	地域探究中間発表会【2学年】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域探究の中間活動状況について発表し、外部から助言をもらう（9月20日 2学年） ・課題から仮説を立ててフィールド調査を実施（9月28日 1学年）
10	考察と発表プログラム【1学年】 第2回コンソーシアム会議	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド調査の結果を分析し、一連の探究活動をまとめて発表する。（10月11日 1学年）
11	生活体験顕彰制度登録【2学年】	<ul style="list-style-type: none"> ・「探究プログラム」参加に向けて生活体験顕彰制度に全班が登録（11月31日 2学年）
12	地域探究ポスタープレ発表会【2・3学年】 地域探究ポスター発表会【1・2学年】	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生が3年生に向けて地域探究活動のプレ発表を行い、質問や助言を得る（12月12日 2, 3年） ・2年生が1年生、外部関係者、保護者に向けて地域探究活動の成果をポスターで発表する。（12月16日 1, 2学年） ・探究チャレンジ上川支部大会参加（12月27日 2学年1チーム） ・地域探究プログラム北海道ステージ参加（1月 2学年3チーム）
1	コーディネーター・担当者打合せ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域探究プログラム全国大会参加（2月12日 2学年1チームおよび3年生2名）
2	地域課題テーマ設定プログラム【1学年】 第3回コンソーシアム会議	<ul style="list-style-type: none"> ・地域探究テーマ設定に向けてグループを編成し、情報収集として

資料 上5

3	地域探究テーマ発表会【1学年】 連携校との交流事業【1学年】	町役場にインタビューを実施（3月16日 1学年） ・地域探究テーマを設定し発表してクラス内で交流するとともに助言をもらう（3月22日 1学年） ・これまでの探究活動を CLASS プロジェクト協力校の豊富高校の1年生とお互いに交流する。（3月23日 1学年）
---	-----------------------------------	---

4 小・中学校との連携を強める取組について

コンソーシアム会議の中でも意見を求めたが具体的な取り組みにはいたっていない。現在の本校の実情では、小中学校と連携して事業に取り組む段階までいたっておらず、次年度に向けて模索していきたい。また、視察研修を行った埼玉県立小川高校の小中高の連携の取り組みでは、小中高の連携に向けて県教委・町教委・小中高校の各代表による会議を頻繁に行いながら事業の立案を地域コーディネーターが中心となって行っていた。高校から一方的に働きかけるだけではなく同じ課題意識を共有した組織間の連携体制を構築する必要がある。

5 学校独自の取組・工夫・実践について

(1) 組織化に関する取組・工夫・実践（校内体制含む）

組織的に事業を実施するために探究推進委員会が設置されているが、一部の教員が中心となって企画立案と実践が行われており、その課題を共有し解決策を検討するために校内研修を実施した。これらをもとに次年度に向けた組織的な運営体制の見直しが行われた。

(2) 地域コーディネーターとの連携に関する取組・工夫・実践

担当者とコーディネーターの打合せを定期的実施するとともに、連絡を密にして連携の強化を図った。また、1年生および2年生の事業にも参加してもらい生徒の指導や地域との接続役を担ってもらった。しかし、地域探究の担当者との意見交流はあるが、学年団との交流が少なく、職員全体との関わりの強化が今後の課題である。

(3) その他

令和5年1月11日～13日に地域連携と探究活動の実践について道外視察を実施。文科省から「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受けた埼玉県立小川高等学校と神奈川県立山北高等学校では、地域コーディネーターとの関わりや地域連携のための組織運営等で参考となった。また、令和4年度に文科省から「スーパーサイエンスハイスクール」に指定された埼玉県立緑が丘高等学校では、探究活動の進め方、組織的な探究活動の運営・組織体制等で参考となった。

資料 上 6

令和5年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（3年次）

学校名	北海道上富良野高等学校
作成日	令和5年4月25日

1 今年度の目標と取組計画

月	取組
3年次 (R5)	(目標) ・開発・改善を行ったカリキュラムの実践と効果の検証 ・地域と協働した事業の実施と効果の検証 (主な取組予定) ・地域課題を元にした教科横断型の探究型学習プログラムの実施 ・コンソーシアムを軸として、地域と連携した授業および事業の実践 ・自走可能な校内および地域連携体制の整備

2 今年度の検証の項目と方法

検証の項目	検証の方法
Collaboration	【項目】 地域課題を題材とした探究活動の実施 【方法】 地域と関わったテーマがどれだけあるか。地域の関係機関との連携がとれたグループがどれだけあるか。
Literacy	【項目】 地域素材を活かした教科横断型プログラムの開発 【方法】 教科横断型のプログラムをどう実践したか。
Adult	【項目】 地域の大人が子供とともに取り組む探究活動の実施 【方法】 どれだけの地域人材が探究活動に関わったか。
Student	【項目】 育成する生徒像に関わる評価 【方法】 育成すべき資質・能力について、どれくらい達成できたか。（自己評価、外部評価）
System	【項目】 地域コーディネーターと連携した事業の構築 【方法】 どれくらいの割合でコーディネーターが事業に関わったか。次年度以降の体制を整備することができたか。

3 今年度（令和5年度）の取組

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
4	第1回探究推進委員会 コーディネーター打合せ	【1学年】 課題発見プログラム（4月） 情報収集プログラム（5～6月） 仮説検証プログラム（8～9月） 地域人材交流プログラム（10～11月） 地域課題テーマ設定（12～3月）
5	第2回探究推進委員会	
6	第1回コンソーシアム会議 コーディネーター打合せ	
7		

資料 上 6

8	コーディネーター打ち合せ	【2 学年】
9		地域探究テーマ設定（4～5 月）
10	コーディネーター打ち合せ 第 2 回コンソーシアム会議	テーマ発表会（6 月） 地域探究活動（6～3 月）
11		生活体験顕彰制度応募（11 月）
12	コーディネーター打ち合せ	地域探究ポスター発表会（12 月）
1		探究チャレンジ上川（12 月）
2	コーディネーター打ち合せ	生活体験顕彰制度発表（1 月）
3	コーディネーター打ち合せ 第 3 回コンソーシアム会議	【3 学年】 地域探究活動・発表準備（4～6 月） 町長への提言発表会（5 月） 地域探究町民発表会（6 月）

4 自走可能な体制整備に向けた方策

- ・地域コーディネーターと連携した事業の継続
- ・コンソーシアムで構築した連携先との協力体制継続（人材派遣、協働活動等）
- ・学校設定教科・科目「地域探究Ⅰ～Ⅲ」のプログラムの確定

5 圏域の研究指定校等、他校との連携・交流について

協力校（豊富高校）との交流事業の継続

6 学校独自の取組・工夫

探究活動を通じた地元中学校との交流

7 その他特記すべき事項

上富良野高校について

- 1学年1学級 全校生徒77名
- 就職、進学(専門学校含む)は半々
- 不登校経験、発達障がいを持つ生徒も複数在籍



事例発表 北海道上富良野高等学校

令和5年11月16日
全道地学協働活動研究大会



上富良野高校の取組について

- 3年間の主な取組
- 地域コーディネーターの役割と成果
- CLASSプロジェクトの成果と課題



上富良野高校スクールポリシー

自律する力

つながる力

行動する力

考える力

表現する力

挑戦する力

3年間の主な取組（流れ）

- 1年目
総合的な探究の時間の時間での「地域から学ぶ」
教育課程の見直し、学校設定教科「地域探究」
- 2年目
「地域探究 I」の開講
生徒の発表をYouTube配信でおこなう
- 3年目
「地域探究 I・II」の開講 プログラム内容の検討
3年間を見通したプログラムの検討

地域から
学ぶ

教育課程の
見直し

地域探究

ICT活用

プログラムの
充実

自走できる
プログラム

3年間の主な取組（生徒の活動）

- 1年生 地域を知る・探究の基礎を学ぶ
十勝岳ジオパーク・・・地域巡検・フィールド調査
インタビュアー実習
- 2年生 地域の課題を見つけ探究活動を進める
グループでの地域課題への探究活動
青少年体験活動顕彰制度への応募
- 3年生 地域の課題に対する提言の発表
町長への提言発表会
地域探究町民発表会

フィールド
ワーク基礎

インタビュアー

地域課題を
探究

顕彰制度へ
応募

町長へ提言

地域への
成果還元

上富良野高校の取組について

- 3年間の主な取組
- 地域コーディネーターの役割と成果
- CLASSプロジェクトの成果と課題

地域コーディネーターの主な業務

- 十勝岳ジオパークとの調整
フィールドワークの調整
巡検内容の検討
- 探究活動の支援や評価
授業内での活動に対するアドバイス
探究活動や発表に対する評価
- 地域との連携
連携先の発掘（農家、商店など）
連携先との調整、活動の周知

フィールド
ワーク

巡検内容の検討

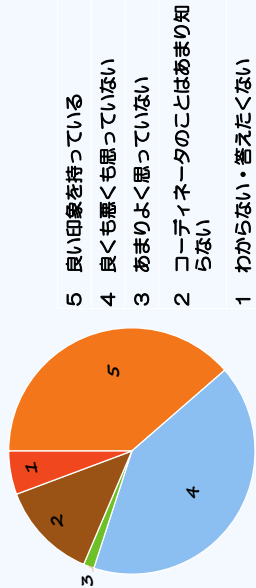
アドバイス

学習への評価

連携先の
発掘

連携先との調整

コーディネーターについて（1～3年）



上富良野高校の取組について

- 3年間の主な取組
- 地域コーディネーターの役割と成果
- CLASSプロジェクトの成果と課題

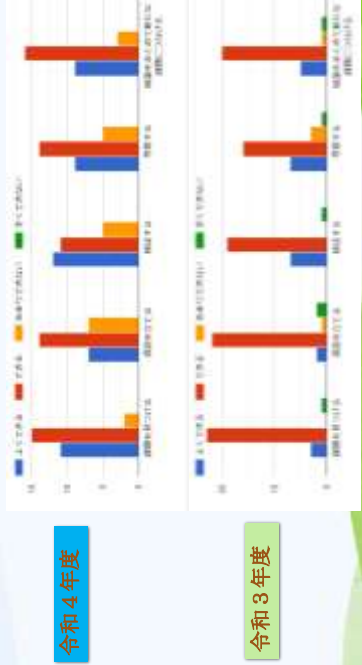
CLASSプロジェクトの成果と課題

- 成果
 - 生徒の変容 → 振り返りアンケートから地域の活性化
 - 町長への提言が実現した
 - ※R2に提言したトイレの整備
 - ※カウンターサインの見直しの動き
 - 商品化して販売会を実施(TVや新聞で報道)



生徒の変化(R3 → R4)

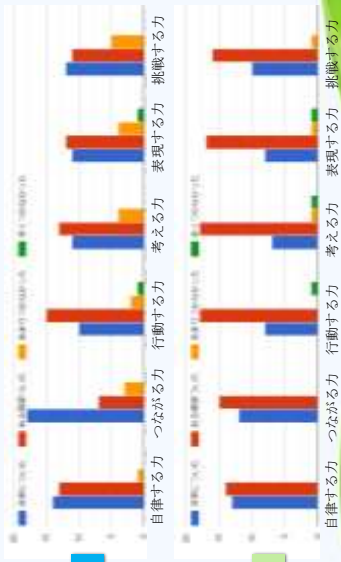
Q 探究活動を通してどのようなことができるようになったか？



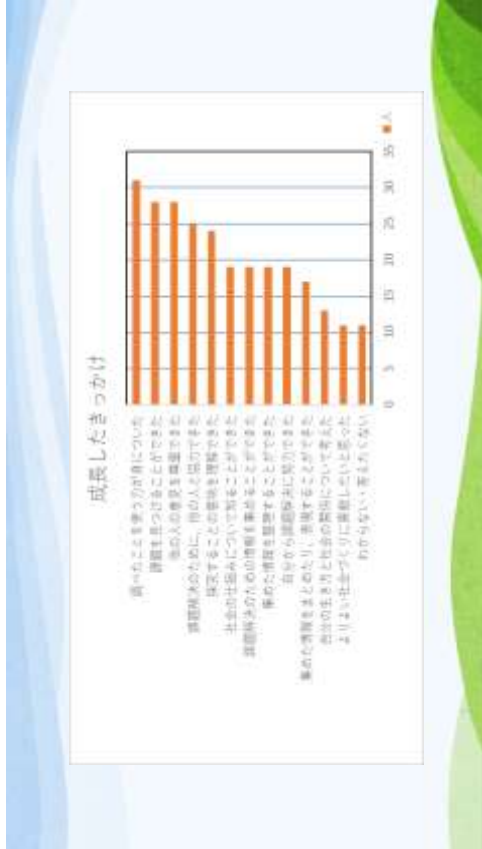
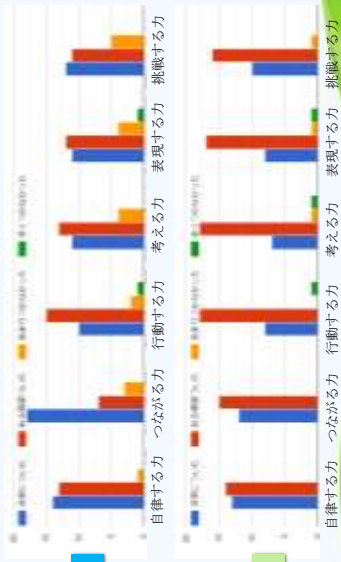
生徒の変化(R3 → R4)

Q スクールポリシーに対するリフレクション

令和4年度



令和3年度



CLASSプロジェクトの成果と課題

課題

- ・ 「地域探究」3年間のプログラムの完成
 - 次年度、完成年度
- ・ 地域コーディネーター
 - 今まで同様の活動のための予算
 - ・ 教員が異動しても活動を継続するため、活動内容をマニュアル化
- ・ 活動内容の評価と改善方法の工夫

地域探究の完成

地域コーディネーター

マニュアル化

評価と改善

令和 5 年度 北海道CLASSプロジェクト実施成果報告書（3 年次）

学校名	北海道上富良野高等学校
作成日	令和 5 年12月20日

1 今年度の検証について

①	検証の項目	Collaboration 地域課題を題材とした探究活動の実施
	検証の方法	地域と関わったテーマがどれだけあるか。地域の関係機関との連携がとれたグループがどれだけあるか。
	検証結果	2 年生の課題設定においては、全てのグループが地域に関連するテーマを設定した。また、地域と連携した商品販売会や町役場等でのアンケート実施など地域の関係機関と連携した取組があった。

②	検証の項目	Literacy 地域素材を活かした教科横断型プログラムの開発
	検証の方法	教科横断型のプログラムをどう実践したか。
	検証結果	地域探究 I（探究の基礎を学ぶ）において、情報の検索方法、論文の読み方などは国語科・情報科・商業科・地歴科・公民科が、フィールド調査の方法については理科が、インタビューの方法については英語科・家庭科・保健体育科が主体となり授業を行い、各教科では地域探究に必要なカリキュラム構成を検討するなど教科横断型プログラムを実践することができた。

③	検証の項目	Adult 地域の大人が子供とともに取り組む探究活動の実施
	検証の方法	どれだけの地域人材が探究活動に関わったか。
	検証結果	地域探究 I では、地域人材交流会において 6 名の方のインタビューの協力を得た。 十勝岳ジオパーク協議会・大雪青少年交流の家の方々はフィールドワークや発表会の評価などに関わっていただいた。 地域探究 II では、5 グループ全てが地域の方と関わりがあり、課題研究を進めることができた。特に、商品開発では地元のコミュニティカフェの方の協力もあり、販売会を実施することができた。 地域探究 III では、地元のパン屋との商品開発・販売会を実施。探究活動の成果を「町長への提言発表会」という形で発表する機会を得た。また、その内容に対して町役場が実現に向けてうごいてくれるなどの成果を得た。

④	検証の項目	Student 育成する生徒像に関わる評価
	検証の方法	育成すべき資質・能力について、どれくらい達成できたか。（自己評価、外部評価）

資料 上 8

	検証結果	生徒の自己評価アンケートによると、育成すべき資質・能力について、探究活動において向上したと捉えている生徒がほとんどであり、コンソーシアム会議においても3年生の成長について肯定的に捉えている発言が多くあった。
--	------	---

⑤	検証の項目	System 地域コーディネーターと連携した事業の構築
	検証の方法	どれくらいの割合でコーディネーターが事業に関わったか。次年度以降の体制を整備することができたか。
	検証結果	3年間を通してフィールドワークへの協力、探究活動に対するサポートと評価、地域人材の発掘、学校と地域のパイプ作りと多くの場面でコーディネーターは事業に関わって頂いた。次年度以降についても十勝岳ジオパーク協議会からは可能な限り協力していただけるとの回答を頂いている。

2 当事者の声について

生徒	<ul style="list-style-type: none"> ● 良かったことは地域について色々な知識がついたこと。理由は、上富良野町のことを知らなかったが、カントリーサインのことだけでなく、ジオパーク、豚サガリ、パンフレット、公園、ごみのことも知ることができた。自分の住む富良野のいいところや課題はなんとなく知っていたが、近くの町の場合は全然知らなかったから上富良野町のことを知ることができた。また、日高や全国の地域のことも知ることができたのも地域探究の活動をしたからだと思う。 ● 正解がない課題に対して自分ができることは何なのかを熟考するようになった。わからないなりに課題解決に向けてできそうなことをできるだけやることも大事だということに気付かされた。 ● 活動を通して良かったことは、発表の気持ちよさと、街の調査です。発表の良さに気づいたのは、町長提言のとき、やる前とかは、やだなあとかやりたくないなあとか思いながら役場に行ったけど、いざ発表をして、終わったあと、ものすごい達成感と、鎖から解き放たれたかのような解放感に襲われました。
教諭	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員によって指導に差が生じないように、研修を重ねる必要がある。 ● クラスプロジェクトが終わったあとでも自走できるような研修 次の学校のこと考えると全員が同じ方向を向いて探究活動に取り組まないといけない。 ● 3年間で生徒が積極的に地域に関わる活動が構築されてきたと思う。この事業を行ったことで、探究活動をきっかけにさまざまな視点で地域を知るきっかけができたと思う。
地域の方	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の学生が地域の大人たちと対話をする機会はとても意義深いのではないかなと思います。ぜひ引き続き実践して欲しいと思います。

資料 上 8

- 全国各地で高校生と議員が一緒にまちおこしのことをしている所があるので上富良野でも 町議会議員ってなにしてるの？みたいなテーマから始まって高校生と一緒に町作りを考えていく機会あったらいいなと思っています。
- 日常の中で上高生と話したり、今回上高生と接してみた中で、以前上富良野高校に行かせて頂いた時に感じた生徒の雰囲気より、生徒が明るくなっていた印象があります。また緊張しながらも一生懸命話す姿がとても微笑ましく、改めて生徒、講師お互いにとっていい機会を設けて頂いたことに感謝しております。

3 今年度（令和5年度）の取組について

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
4	第1回探究推進委員会 コーディネーター打合せ	【1 学年】 課題発見プログラム（4 月） 情報収集プログラム（5～6 月） 仮説検証プログラム（8～9 月） 地域人材交流プログラム（10～11 月） 地域課題テーマ設定（12～3 月）
5	第2回探究推進委員会	
6	第1回コンソーシアム会議 コーディネーター打合せ	
7		【2 学年】 地域探究テーマ設定（4～5 月） テーマ発表会（6 月） 地域探究活動（6～3 月） 生活体験顕彰制度応募（11 月） 地域探究ポスター発表会（12 月） 探究チャレンジ上川（12 月） 生活体験顕彰制度発表（1 月）
8	コーディネーター打ち合せ	
9		
10	コーディネーター打合せ 第2回コンソーシアム会議	【3 学年】 地域探究活動・発表準備（4～6 月） 町長への提言発表会（5 月） 地域探究町民発表会（6 月）
11		
12	コーディネーター打合せ	
1		
2	コーディネーター打合せ	
3	コーディネーター打合せ 第3回コンソーシアム会議	

4 自走可能な体制整備に向けた方策について

学校設定教科・科目「地域探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を教育課程に設定。次年度が完成年度になるが、教科として全校的に探究活動を推進していくとともに、それぞれのプログラムで普通教科と連携しながら全体として運営する体制を構築していく。

また、継続してコンソーシアム会議の構成員やコーディネーターと連携する方策についても検討している。

資料 上 8

5 圏域の研究指定校等、他校との連携・交流について

令和4年度に協力校の豊富高校とオンラインで接続し、お互いの地域と関わった探究活動について交流会を実施した。今年度も同様に遠隔での交流会を予定している。また、旭川西高校が主催する「道北圏探究フォーラム 2023」に2チームが参加し、自校の取り組みを発表するとともに、他校の地域と関わる活動について交流することができた。

6 学校独自の取組・工夫

◎学校設定教科・科目「地域探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の設置。
 「地域探究Ⅰ」では探究活動の基礎と地域を知る活動を中心に、他教科と連携しながら実施するプログラムを構築した。「地域探究Ⅱ」では実際に地域の課題を設定し、場合によっては地域の方と連携しながら探究活動を実践している。「地域探究Ⅲ」（今年度は「総合的な探究の時間」）では、地域課題解決に向けた探究活動の成果を町民に還元するために町長への提言発表と、町民に向けた成果発表会を実施している。全ての授業において、地域コーディネーターの方と連携し地域との接続に協力いただいている。

7 その他特記すべき事項

< 3年間のまとめとして >

8 3年間の成果

●スクールポリシーにそった活動実践
 この事業を通して、スクールポリシーに則った探究活動を柱とする授業を構築することができた。生徒のアンケート結果の変遷を見る限りでも、このプログラムを実践することで、本校の育成すべき力に対する効果を客観的に評価することができるようになった。更に、それぞれのプログラムが様々な教科と連携することで、学校全体として指導する体制を築くことができた。

●地域との「連携」から「協働」へ
 以前まで様々な場面で協力いただいていた十勝岳ジオパーク推進協議会と連携したことで、地域との接続の強化につながった。その結果、探究活動の実践では、地域の方と協働して活動する班も増えてきた。一緒に活動していただいた方も、協働することで、生徒と一緒に学んでもらう機会となったのではないかと考えられる。
 これまでは、地域から生徒に供給してもらった活動が多かったが、「町長への提言発表会」を実施し活動の成果を町に還元することもできた。実際に町の公共施設の改善や、新しいカントリーサインの提案といったところで、高校生の視点から町民を代表して町の政策に一考を投げかけるきっかけとなっている。さらに、町民発表会はもとより、町の広報誌や様々なメディアにその活動を取り上げていただくことで、町民にも高校生の活動に興味を持ってもらい、協力だけではなく協働して活動するきっかけになっていると考えられる。

資料 上 8

●地域に主体的に関わる意識の育成

3年目に実施した「地域人材交流会」では、高校生が主体的に地域の課題に向き合うきっかけとするため、講演ではなく少人数で様々な地域の方と語り合う形で事業を実施した。この事業によって、生徒がなかなか気づかない地域の魅力発見にもつながった。今回は様々な分野の6名の方をお願いしたが、どの方も非常に協力的で熱心に高校生と対話していただいた。更に、その方々のネットワークによってより多くの地域人材の方を紹介いただき、今後もこの事業を継続することで、地域と学校とのつながりが強くなっていくと考えられる。

3年間の実践を通して、「探究活動」を軸とした事業をもとに、地域コーディネーターの方と協力して事業を改善してきた。その結果、卒業生の中には、地元地域はもとより、道内の同じような地域の活性化を目指して就職した生徒もおり、この活動の成果がうかがえる。生徒が探究活動を通じて地域を学び、地域と協働して活動し、地域に貢献する活動につながったと考える。

9 3年間の課題

●学校設定教科「地域探究」の評価

学校設定教科「地域探究」の評価については、現在も様々なプログラムの節目でルーブリックやレポート等の成果物で評価を行っている。しかし、プログラムによって担当者が異なり、評価の集約に手間がかかっている。より、それぞれの担当者の評価をよりスムーズに全体評価につなげるようなシステムの構築が今後の課題である。

●地域コーディネーターの継続的な確保

現在地域コーディネーターとして関わっていただいている方の、今後の協力体制維持は1つの課題である。これまではCLASSプロジェクトの予算により、一定の報酬の元、業務に関わっていただいた。地域コーディネーターの存在は、学校と地域の橋渡しとして非常に重要な存在であり、今後も地域探究の事業の継続や改善にむけて欠かすことのできない存在である。この体制をどの様な形で維持できるかが検討課題となっている。

●主担当者の負担と引き継ぎ

また、学校設定教科「地域探究」のプログラムはある程度骨組みができてきたが、その主担当となる教員の負担や引き継ぎの難しさが課題である。主担当教諭は、自分が担当する教科に加えて、地域探究事業全体の計画や統括、評価さらにコーディネーターの方への連絡、協議など多岐にわたる。ある程度本校の実態や、地域にアンテナを貼りながら連絡を取るなど外部とのつながりを引き継ぐことができるかどうか、今後課題となってくる。